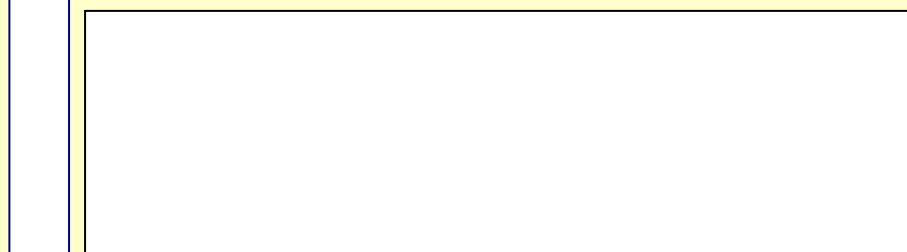
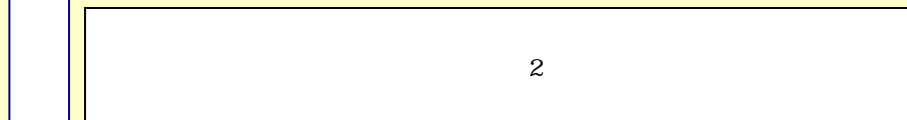
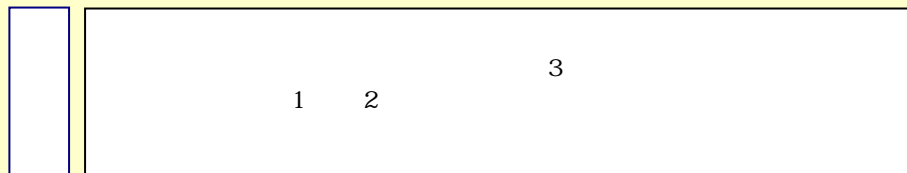


都心部に商業・業務機能が集積しており、栃木県の政治・経済・文化の中心として発展してきたが、中心商店街の活力低下や交通渋滞の発生などにより、都心部の機能が低下している。

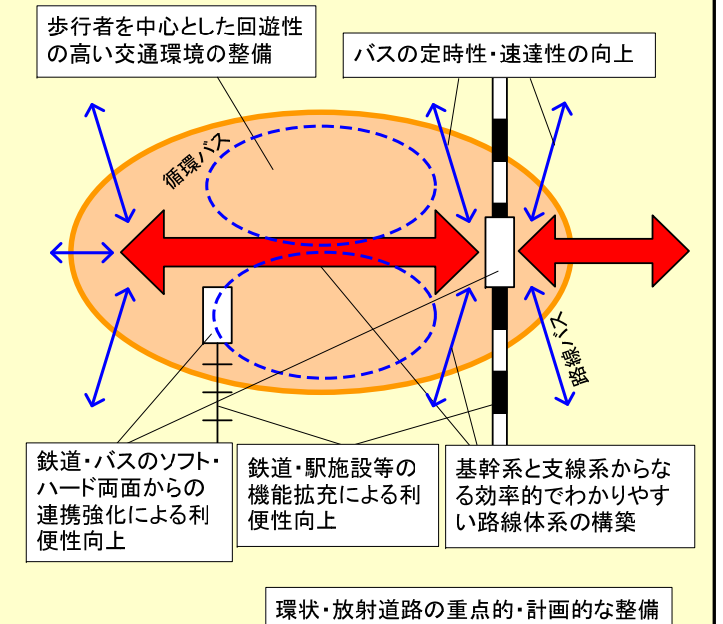
このような状況に対し、都市再開発事業や中心商店街振興など各種施策・事業を総合的に展開することによって、中心市街地の活性化を図っている。

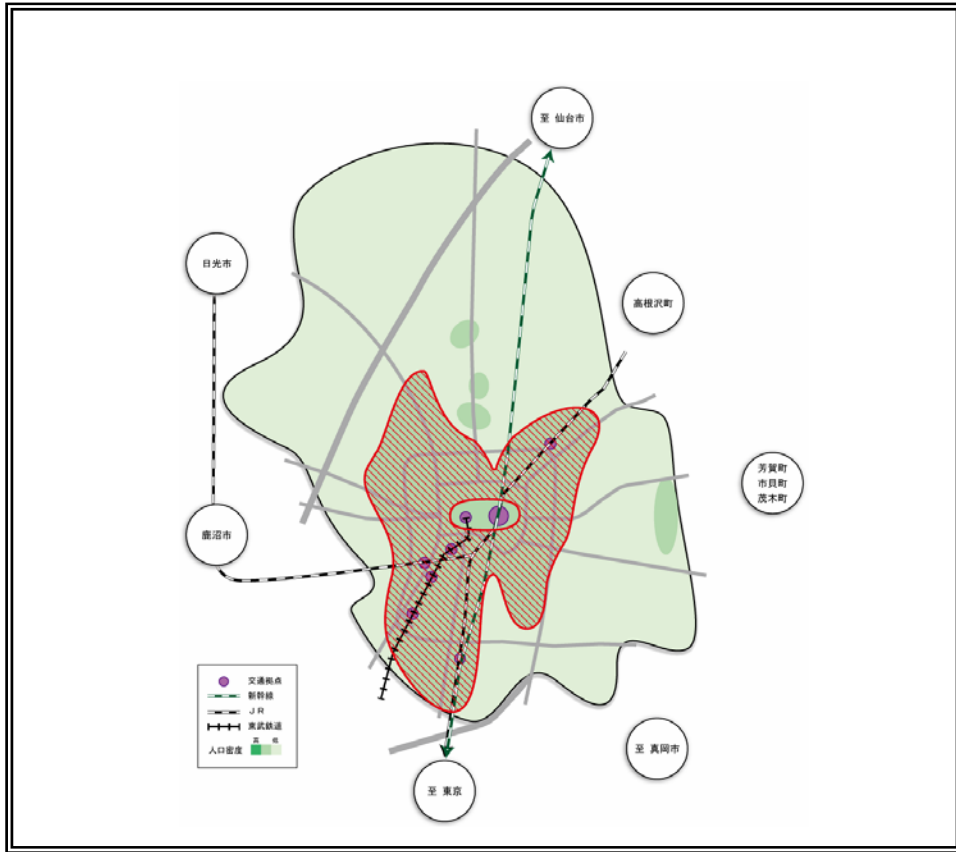
現在、大通り周辺地区におけるパンパ周辺の再開発事業等による賑わいの創出や都心居住の促進、JR宇都宮駅東口周辺の区画整理事業、駅前広場整備による都市機能集積、高度化が進められている。

道路、公共交通のサービス水準は比較的高いものの、駅の交通結節機能や、輸送機関としてのバスの効率性、市外からの来訪者に対する分かりやすさに課題がある。



県都である本市の中心地としてふさわしい集積を高めるため、歩行者、自転車と公共交通を中心とした交通体系を目指す。





都心部周辺や交通の要衝に既成市街地が広がっていたが、モータリゼーションの進展と相まって、その周辺に新市街地が広がった二重構造をなしている。

公共交通の利便性が比較的高い地域と低い地域が混在している。利便性の低い地域は、総じてモータリゼーションの進展期に開発された新市街地であり、居住者は、ほぼ自動車利用を前提とした生活となっている。

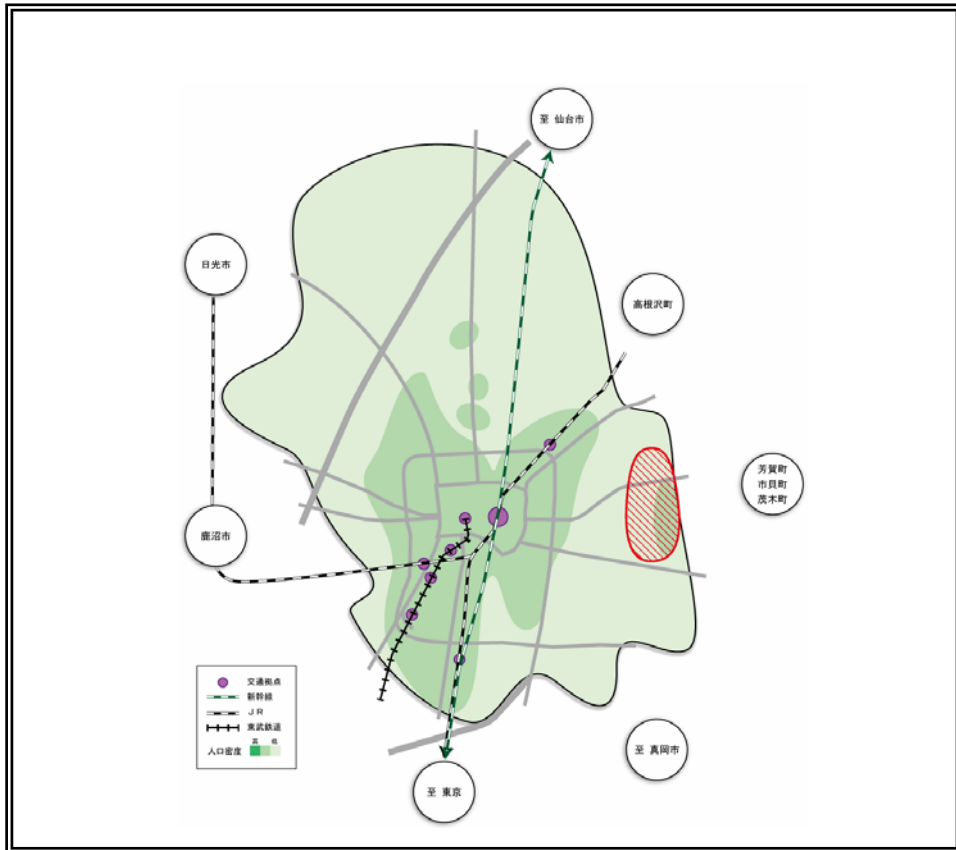
1
2

1
2
3

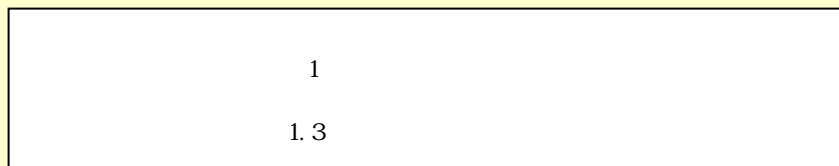
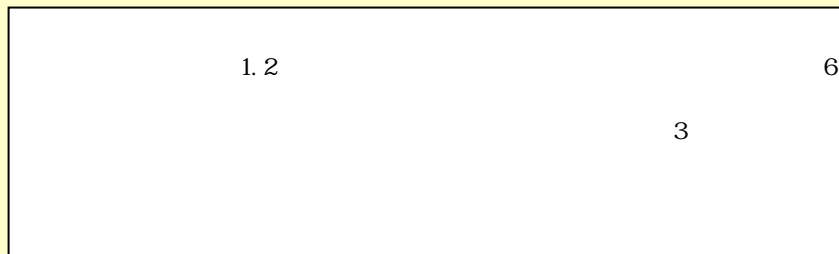
5km

既存の鉄道やバスを活用するとともに、これらを補完する公共交通を配置し、一定のサービス提供を目指す。

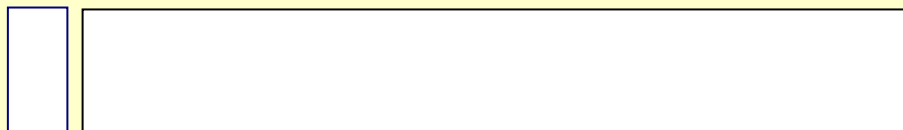
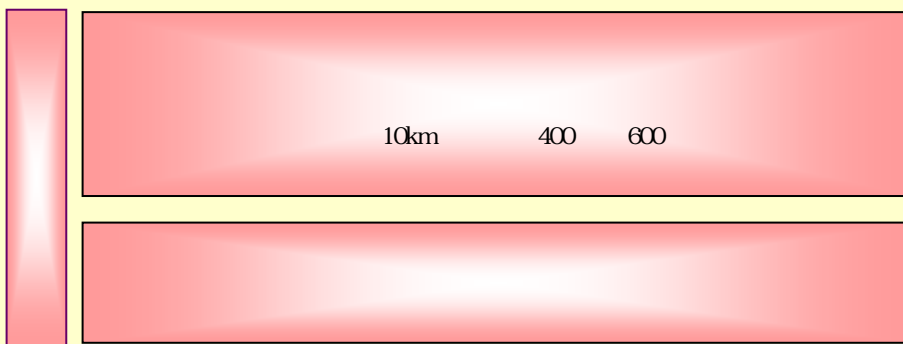
(
)



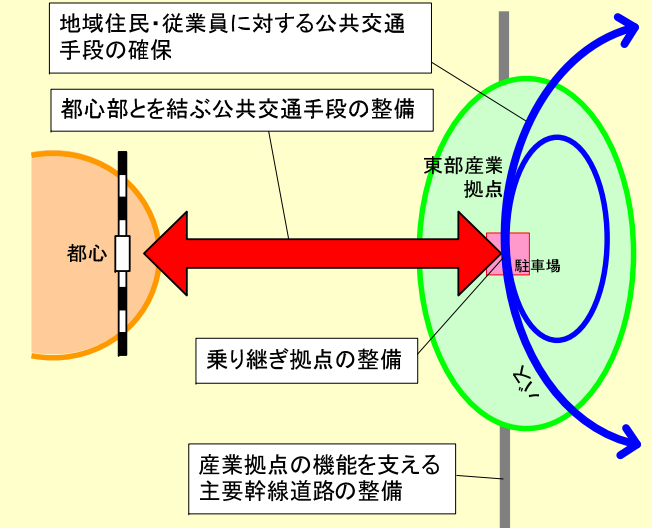
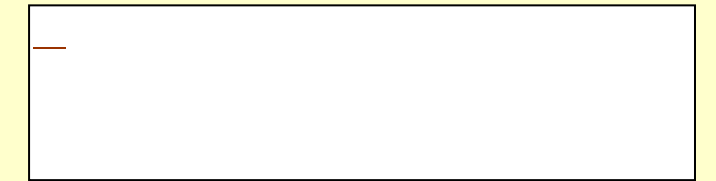
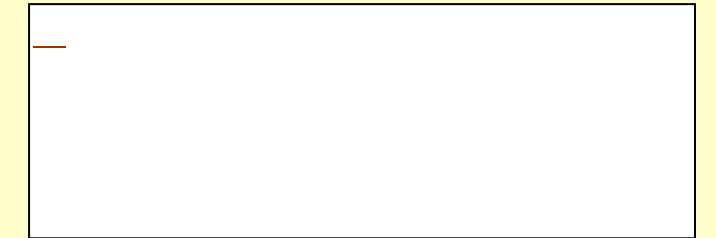
内陸型工業団地として我が国最大規模の清原工業団地が整備されており、テクノポリス計画の進展に伴い、産・学・住・遊の機能が融合した新都市としての発展が期待されており、市全体の産業を牽引する拠点としての役割が求められている。

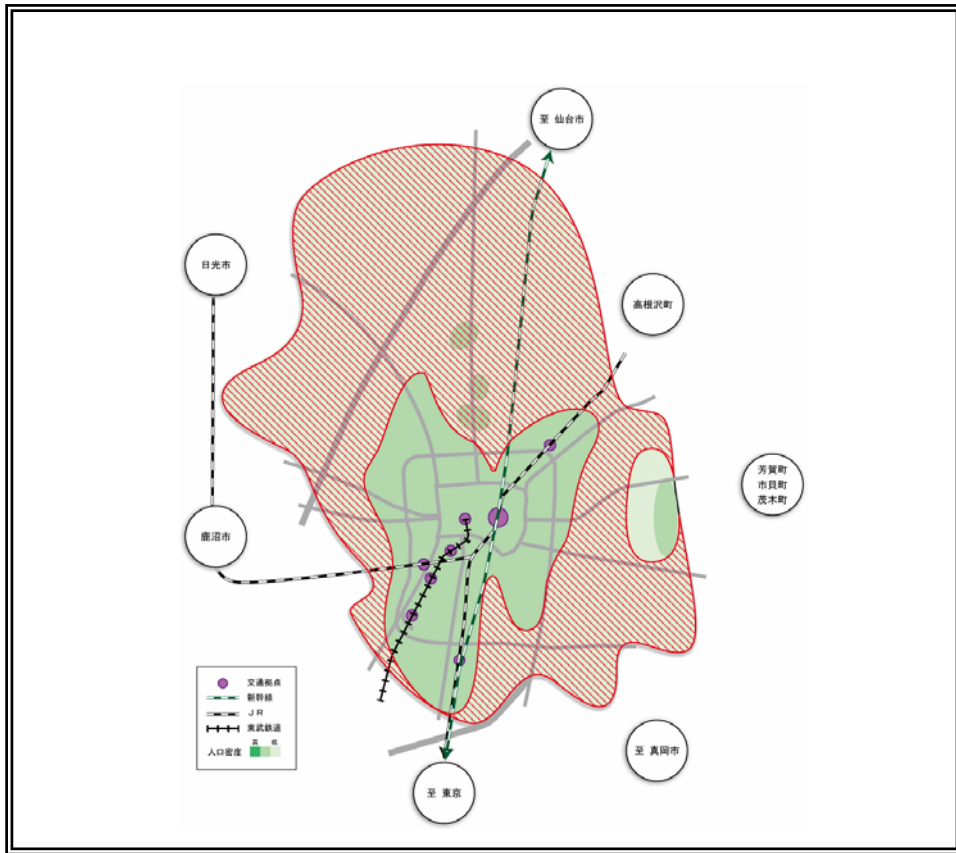


モータリゼーションの進展期に計画、造成された地域で、主要な移動手段は自動車であり、公共交通の整備に対する要望が高い地域である。



本市の産業を牽引する拠点として、企業や交通事業者などの連携により、朝夕の通勤や地域住民の日常生活に対応した交通体系を目指す。





過度な市街地のスプロールを抑制するとともに、市民が身近に楽しめる自然環境や地域資源として、その保全・活用と併せて地域振興を目指す地域である。

住民の移動手段は自動車を中心であり、主要幹線道路では一定のバスサービスが提供されているものの、その地域は限定されている。

自動車と公共交通の適正な役割分担により地域住民の移動手段の確保を目指す。

